

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

4月中旬開催された平昌オリンピック・パラリンピックで活躍した5名の地元選手の「凱旋パレード・報告会・表彰式・祝賀会」に大勢の皆さんで盛り

上がるこの趣旨で、森上区長や白馬高の同窓会の役員を務めている私宛にも案内が届き参加する機会があった。だが組織的動員と異なる多くの参加者は、2大会連続の銀メダルと今シーズンワールドカップノルデック複合で総合優勝を成し遂げた「渡部暁人選手」や他の選手目当ての熱狂的な盛り上がりを見ながら、消極的な自分が見えなくなる。

イベントの内容は、多くの情報発信がされているので参加者の一人として感じた事を伝えればと原稿に向かう。パレードでは警察関係者の献身的な協力体制やスキー関係者の手際よい取り組み、恥ずかしそうに行進する女学生の仕草が強く印象に残る。表彰特設会場での選手のインタビューは、白馬高観光国際科の女子生徒、素直な質問が、選手や会

## 将来の地域を担う子供達に、多くの体験できる舞台が求められている

きスキーを語る挨拶は選手や子供達に届いたはずだ。会場の役場多目的ホールの中央テーブルには、多くの料理が並べられ本格的なパーティー会場に。パーティーに慣れ切った大

ない。子供たちを参加させた関係者に感謝だ。3月北海道新聞の卓上四季で「地球温暖化と冬季五輪の行方」のコラムが掲載された。札幌市が2026年に2度目の冬季五輪を

のままでと長野県は開催に適さなくなると伝えた。これからのスキー産業が厳しい現状の中で、世界で輝く人材の育成は少子化等による人口減少社会で年を追うごとに課題が噴出するだろう。だからこそ、村民意識の有り様にもっと関心を持ってほしいと感じた一日でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

